

輸入検疫で発見された主な重要病害虫

アザミウマ科の一種

学名：*Thrips parvispinus* (Karny)

英名：Taiwanese thrips

本種は、東南アジアを起源として広範囲な農作物、園芸植物に寄生するアザミウマ科の昆虫である。分類学上は我が国に分布する農業上重要なミナミキイロアザミウマやネギアザミウマと同じ*Thrips*属に属し、我が国の輸入検疫では東南アジアからのセンネンボク切り葉やラン切り花などからしばしば発見されている。

分布 台湾、インドネシア、マレーシア、シンガポール、タイ、オーストラリア北部、ソロモン諸島。近年ギリシャやハワイへの侵入が報告されており、我が国を含む各国への分布拡大が警戒される。

寄主 トウガラシやジャガイモなどの葉や花に寄生し、特にクチナシのような香りの強い花をつける植物を好む傾向がある。

形態 成虫を実体顕微鏡で観察する場合には、最初に*Thrips*属の特徴である前胸背板の後縁角に2対の長刺毛を持つ点(図2)を確認するとよい。雌成虫の体長は約1.4mmで、ミナミキイロアザミウマやネギアザミウマよりやや大きく、体は褐色で、生きている時には単眼が赤く、前翅は褐色で基部が淡色となる色彩を持つことから、我が国で普通に見られる*Thrips*属の中ではハナアザミウマによく似るが、前翅の前脈刺毛の列が先端まで途切れない点(図3)により、ハナアザミウマなど多くの同属他種から区別できる。ただし、これらの特徴は他種と区別する上で参考となるが、正確な同定を行うためには、プレパレート標本作製し、生物顕微鏡で他の微細な形態も観察する必要がある。

雄成虫は雌成虫より小さく、体はほぼ一様に黄色で腹部背板に淡褐色斑を持つ。

生態 幼虫及び成虫は、葉、花、果実などを吸汁し、雌成虫は鋸のような産卵管で植物組織を切り裂いて産卵する。幼虫は2つの齢期、2つの蛹期を経て成虫になる。蛹化は主に土中で行わ

れる。

被害 東南アジアではトウガラシやジャガイモなどの様々な農作物に深刻な被害を与える害虫として重要視されている他、ハワイではパパイヤ、ギリシャでは温室内のクチナシで被害が報告されている。

直接的な吸汁による葉への被害は、かすり状の小さな食害痕を生じる他、黄化、湾曲、枯死などで、花では変色し、果実は肥大しなくなる。このような1次的な被害に加え、2次的な被害として*Tobacco streak virus*(タバコ条斑ウイルス)を媒介することも報告されている。

防除 発生国での防除には有機リン系(キナルホス)、ピレスロイド系(シベルメトリン)、有機塩素系(エンドスルファン)などの殺虫剤が使用されているが、過剰な散布による殺虫剤抵抗性の発達が懸念されている。そのため化学的防除以外の研究が進められており、我が国でもミナミキイロアザミウマ、ネギアザミウマ、チャノキイロアザミウマ等への対策として用いられている光反射シートによる土壌マルチによってトウガラシで被害が軽減できるとの報告がある。また昆虫病原ウイルスと性フェロモントラップを用いた方法も研究されている。

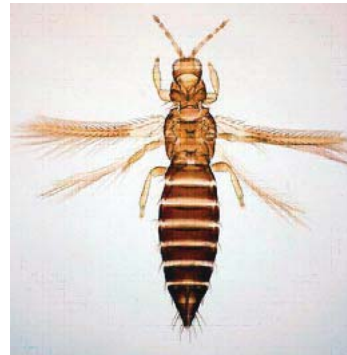


図1：雌成虫の体は褐色で体長は約1.4 mm。

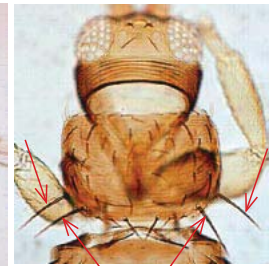


図2：前胸背板の後縁角に2対の長刺毛(矢印)を持つ。

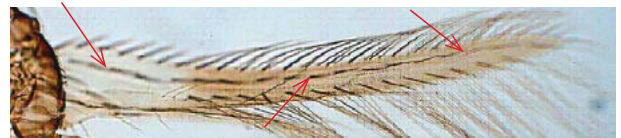


図3：前翅の前脈刺毛の列(矢印)は翅の基部から先端まで途切れない。